

自律・自立の補助輪として

高校生商品開発部 統括責任者 村上久乃



ベネッセの通信教育講座「進研ゼミ」は、高校生が自律・自立していくための「補助輪」でありたい。高校生の学びと生活の中心はあくまでも学校と家庭ですが、それを「ナナメの関係」から支援したいと考えています。

例えば自学自習。高校生の多くは「自分で勉強できるようになりたい。それが本当の力だから」と言います。大学や社会では自力で学ばなければならぬことは分かっているのです。でも、それを妨げる要因が多い。学習の途中でつまずく、友だちからのメールが来る、そもそも自分がどこから学習に取り組んで良いか分からないという声も聞きます。

す。大学合格の倍率が下がっていることや、(座談会でも話題になりましたが)社会の暗い面ばかりが強調されることも学ぶ意欲を低下させる要因といえます。

そうした環境下で学びに向かう高校生のために私たちが出来ることを考えると、良質な教材をお届けすることとはもちろん、学校での学びを受けて家庭で何を学べば良いのかという「学習の入り口」の提示や、学力の積み重ねが見えるようにしてやる気を持続させること、先輩の目から大学での学びの様子や社会での活躍ぶりなどを高校生に伝えることも出来るのではないのでしょうか。「ナナメの関係」によって出来ることをこれからも考え続けていきたいと思えます。

「生徒の心に火をつける」ことが出来る教材づくり

高校事業部 統括責任者 福竹康志



今回の座談会を通じて、改めて高校での教育活動の大切さを認識しました。企業の方々がお話しされていたように、「後になって分かることも多い各教科・科目の必要性」「心に刻まれた先生の言葉」など、高校3年間は社会に出てから必要な力の土台を培う重要な時期であると感じました。

進研模試をご提供している高校事業部は、先生方、生徒の皆さんが粘り強く努力された結果や状況を測定するアセスメントと、学びをサポートする教材を柱に学校現場をご支援してまいりました。今後は学校での指導において役に立つ教材の充実に加え、生

徒の心に火をつけることが出来るような教材やラインナップの充実に取り組んでいきます。

また、我々は全国9拠点から学校にご訪問をしております。全国への学校訪問は日々多くの気づきを我々に与えてくれます。地域・エリアという視点を更に大切にしたい情報・サービスをご提供していきたいと考えております。

進研模試の実施を開始してもうすぐ50年になります。これからの社会に出て必要になる力を、生徒の皆さんに育んでいただけるよう引き続き努力いたします。今後ともご指導をよろしくお願いたします。